

「事業名：地域住民の絆で作る防災対策」

出雲市 須佐コミュニティセンター

1 須佐地区の概要

(1) 佐田町について

ア 出雲市の最南端東部に位置する山間地域で、人口 3,427 人、世帯数 1,188 世帯（平成 29 年 12 月末現在）少子高齢化、過疎化の進む地域である。

イ 伝統文化が盛んな町で、県内外で活躍する「出雲農村歌舞伎むらくも座」「さだ須佐太鼓」や、9つの神楽の団体、さらに民謡・舞踊団体などがある。

ウ 佐田町には須佐地区と窪田地区があり、それぞれに保育所、小学校とコミュニティセンターがある。中学校は、佐田町に1校である。

(2) 須佐地区について

ア 須佐地区は、面積約 62 km²で、85%が山林の山間地域であり、民家が点在している。人口 1,958 人、世帯数 654 世帯で年々減少しており、高齢化率 41.3%と高く少子高齢化が著しい。

6つの振興協議会からコミュニティが組織されており、その下に30の自治会がある。

イ 須佐之男命を祀り、本殿は大社造りの建物で、須佐の七不思議など伝説がある「須佐神社」と、隣接して「出雲須佐温泉ゆかり館」がある。夏でも10度前後の冷風を吹き出す「八雲風穴」があり、また、興亡変転の城、「高櫓城」の馬場を利用して作られた目田森林公園などもある。

2 事業の趣旨

(1) 現状

ア 就労環境の変化や高齢化の進展などにより、地区内での会話が減り、地域の付き合いが薄くなったと感じている。

イ 若者が市内の市街地へ移住し、活力が低下している。

ウ 自治会長が1年交代のところが多く、継続的に議論を深めることができていない。

エ 豪雨や台風の実体験や全国各地で頻繁に起こる災害を見聞きし、災害に対する住民の関心が高まっている。

(2) 目指す住民像

ア 地域住民全員が防災対策知識を習得し、災害時に近隣の住民と連携し適切な行動がとれる。また、要支援者への対策も対応できる地域づくり。

イ 防災対策の共通話題から地域内の絆を復活する。

ウ 今回の取組みを足掛かりに地域の負をあきらめるのではなく地域課題を探り、解決する力の醸成と地域内の盛り上がりからのリーダーの養成。

3 具体的な取組内容

(1) ステップ1

各自治会に出かけてGISを活用し、市のハザードマップの説明、地域に潜む危険について、また要支援者対策の必要性について認識してもらい万が一の時の参考にしよう。



(出前座学講座)

(2) ステップ2

ア 専門知識を持った防災士と住民と一緒に地域内の避難経路を歩いて危険個所を調査する。



(防災士と住民との現地調査)

イ その調査結果を更にGIS地図上に加え、再び自治会に出向き地域の危険情報を住民に知らせ、危険情報を共有化し、新情報を入力したハザードマップを各戸へ配布する。



(新情報入力ハザードマップ説明と協議)

(3) ステップ3

- ア 自治会住民で作り上げた独自のハザードマップを基に避難訓練の実施と要支援者に対する支援手法を確認する。
- イ 住民自ら共同して飲料水の確保と炊飯器以外のものでご飯を炊く手法を日頃から学んでおくため、スーパーデリオス(飲料水作り用ろ過器)を使い飲料水を作り、その水で炊飯訓練を行う。



(日本赤十字社の指導のもと、炊き出し訓練、救急法、搬送法などの講習)

4 評価と成果

(1) 取組みの変化

地域により温度差はあったものの、ステップ1、2の現地調査の取組みは30自治会全て終わった。今後、報告会もマップが出来上が

り次第計画の予定である。また、ステップ3は、3地区合同で行ったが、今後も地区合同で行おうという声上がるなど住民同士の絆や地域の連携が図られてきた。

(2) 住民意識の変化

- ア 日頃から地域内の絆を深めておかなければ、いざという時に迅速な行動が難しい事に気づき、地域協働意識が芽生えはじめた。
- イ 災害に対する住民の意識の向上で、日常会話の中に、危険個所の話題、要支援者への話題が加わるようになり、災害時に自治会内でどう行動するかなど認識し合う動きが出た。
- ウ 地域内から声をあげるリーダーが育ち、実際に取り組んでみると難しくない事がわかり、毎年繰り返し取り組まねばならないという思いも出てきた。

5 今後の課題と見通し

- (1) 事業実施2年目となる本年度は、この取組みに対する住民の意識も地域に浸透してきたが、地域によっては事業の進捗に差異が生じているので、毎月の定例役員会で、各地域の取組みの情報共有を図るなど更に足並みが揃うような仕掛けを考えていきたい。
- (2) この事業を通じて新たに山の管理をどう進めていくかという課題の発見もあり、その課題に地域内の住民で築いた絆で解決に向かっていきたい。
- (3) 自助・共助が深まり、防災だけではなく、全ての地域づくり・地域活動において、お互いを思い合い、助け合って暮らせる安心安全なぬくもりのある地域を目指し、U・Iターンの増える活気あふれる、住んでみたい町づくりを目指したい。

(文責：センター長 大崎 強)